

豊富な職業・学問ガイダンスと キャリアパスポートの作成で、 希望から進路を考えさせる

▶ 高取国際高校(奈良・県立)

取材・文／笹原風花

地元で働きたいから 看護医療系…でいいのか？

高取国際高校で通算5年余り進路指導部部長を務めてきた森岡辰夫先生。以前は商・工業高校などで就職中心の進路指導にあたっていたため、「ここに赴任して初めてセンター試験の願書を見た」と当時を振り返る。そのような状況のなかで始めたのが、大学や専門学校の説明会に足を運ぶことだった。

「この地域の生徒たちは、大阪のことは近いと感じているのですが、京都に出るという感覚がなく、進学先の選択肢としてありませんでした。でも、実際は電車を使えば京都の学校も通学範囲です。生徒の選択肢を増やすために、自分の足で距離感を感じ取りながら情報を集め

ようと、当時は年間30校ほど訪問していました」

積極的に学校に足を運ぶ一方、生徒たちがどのような進路を考えているのかを探っていた。そこで見えてきたのは、想像以上の多様性だった。例えば国際英語科では、キャンピングアテンダントなど英語を活かした職業に就きたいという生徒がいる一方、英語とは関係なく地元で就職できたらいいという生徒も少なくなかった。地元で就職を考えたときに「ニーズがあるのが看護医療系で、女子生徒を中心に学年全体の15〜20%弱が看護医療系を志望していた。「地元で働きたいから」という理由で看護医療系の道を選ぶ生徒、「看護医療系＝看護師」と短絡的に考える生徒を見て、森岡先生の頭には、将来的にミスマッチにつながるのではないかと

ガイダンスで職業・学問を 知り、ミスマッチを防ぐ

いう懸念が浮かんだ。また、希望進路別的小論文や面接の指導が担任の先生の負担になっている実情も見えてきた。

こうした課題を踏まえて力を入れるようになったのが、職業や学問を知るための進路ガイダンスだ。総合的な学習の時間のなかで全員が受ける進路ガイダンスでは、1年次は20余りの職業、2年次



進路指導部部長
森岡辰夫先生

進路指導の課題とテーマ

7世紀、日本初の律令国家の中心地であった飛鳥地方。その高台に位置するのが高取国際高校だ。2005年に前身の高取高校(1984年に全日制普通科として開校)の改編により国際科の専門高校として誕生し、2013年には国際英語科・国際コミュニケーション科・普通科の3つの科が設置された。現在は、「磨かれた知性と豊かな国際感覚を身につけ、実社会を生き抜く強い心と人を思うあたたかい心をあわせ持つ生徒の育成」を目標に、飛鳥地域の豊富な文化遺産から学びつつ、多彩な国際交流や外国語学習を積極的に進めている。語学研修や提携姉妹校への生徒派遣、留学生の受け入れなど、生徒が世界を肌で感じる機会も多い。

進路指導においては「夢の実現 高取国際」をキャッチフレーズに掲げ、生徒が「自分は何を通して社会に貢献するか」を考える機会を1年次から設けている。生徒の進路は多様で、例年、約6割が大学・短大、約3〜4割が専門学校に進学し、就職する生徒もいる。多様さ故に「一斉に話をする」ことが難しく、担任が生徒一人ひとりの希望や状況・事情を理解したうえで個別に対応せねばならず、負担が大きくなかなかない。また、生徒も保護者も地元志向・安定志向が強く、「早く進路を決める」ことを優先するがあまり、深く考えないままに進学先や就職先を決めてしまうケースもある。こうした易きに流れた判断はミスマッチにつながりかねず、その防止に工夫を重ねている。

○進路状況(2020年3月実績)

大学進学95人、短大進学25人、
専門学校進学83人、就職19人

就職の内訳は、民間事業所11人、公務員8人。大学進学先は関西地区の語学系・国際系私立大が中心。専門学校は看護医療系が多い。

○School Data

1984年創立／国際英語科・国際コミュニケーション科・普通科／生徒数706人(男子254人・女子452人)



年2回開催される「看護医療系ガイダンス」は、職業ごとに分かれて少人数で話しやすい雰囲気のなか行われる。部活をしている生徒が参加しやすいよう、開催時期も入念に調整されている。



ガイダンスでは熱心にメモを取る生徒の姿も。「うちの生徒は3年間を通して書くことに慣れていくと感じる。次の課題は、これをさらに深め、自分の意見を発信すること」と森岡先生は話す。



集中力アップセミナーの講師は、一般社団法人日本集中力養成協会の集中力プロデューサーである森健次朗氏が務める。脳科学などの理論に基づきつつ、高校生が取り入れやすい実践的なノウハウも多い。

は40近い学部系統・学問分野のなかから各自選んだ2つの職業・学問について、講座形式のガイダンスに参加する。特に志願者の多い看護医療系については、希望者に向けた「看護医療系ガイダンス」を年2回、6月（全学年）と2月（1、2年対象）に開催。看護師、理学療法士、医療事務など12種の職業やそれを目指すための進路について、大学や専門学校の

スタッフに話を聞くことができる。放課後に30分ずつ2チーム行われるため、生徒は興味のある2分野を選んで参加する。6月には80人余り、2月には60人余りの生徒が参加することにも、看護医療系への関心の高さが表れている。

また、1年次から受講できる公務員・就職対策講座の他、小論文の添削講座（2年次）、志望理由書講座（3年次）、就職公務員面接講座（3年次）などを実施。いずれも外部講師による講座だが、その多くは無料で、費用がかかっても数百円程度の負担で済むように予算が組まれている。

ユニークなのが、1学期に1年生全員が受ける「集中力アップセミナー」だ。専門家を講師に迎え、アクティビティやワークを通して自分で自分の集中力を高めるための理論と実践を学んでいく。かつては部活生を主な対象とした自由参加の講座だったが、役立つ情報を楽しく学べる、モチベーションが上がると生徒にも教員にも好評で、数年前から全員受講となった。

「本校の場合、入学してすぐの1年生のなかには、勉強習慣が身に付いていない、勉強に対する主体性がない、という生徒が少なくありません。自分に自信がないと、進路先を選ぶ際も、自分が受かるところでいいや、楽な方がいいや、と妥協しがちです。そんな生徒たちに、ちょっとしたことでも自分が変われるんだ、と気持ちが高揚する体験をしてほしいという思いで、集中力アップセミナーを全員参加にしています」

引継ぎと保護者の意思確認を円滑にする独自のツール

ガイダンスや各種講座に加えて森岡先生が取り組んできたのが、キャリアパスポートだ。文部科学省が「キャリアパスポート」を提示する以前から、独自のものを作成し、活用してきた（ツール1）。

このキャリアパスポートは、年3回、各学年の長期休み前・春・夏・冬に全生徒に配布される。生徒は、学期中の振り返り、得意・不得意科目、休み中の目標・生活時間（起床・就寝・学習時間）・変化、次学期の目標、将来の夢などの項目について、休み中に記入し、新学期に提出する。

「進路通信の代わりに始めたのが最初」と森岡先生が振り返るように、「大学入学共通テスト」や「アドミッション・ポリシー」などこれからの進路検討に必要な用語の解説も載せており、高校生に年の近いアスリートの言葉を紹介するなど生徒のモチベーションを上げる工夫もしている。

森岡先生がこのキャリアパスポートを始めた背景には、大きく二つの課題があった。一つは新年度の引き継ぎ問題、もう一つは生徒と保護者の希望・意見の相違だ。

「新年度に担任が変わる際に、生徒の進路希望や状況がスムーズに引き継げないことが課題でした。生徒からすると、先生や学校に伝えたはずの情報が引き継がれていないと、不信感やまた同じことを伝えないといけないという面倒くささを感じてしまいます。また、進路の最終

＜キャリアパスポート 2020 冬＞

1年 組 番 名前

2学期を振り返り、3学期に飛躍するために自分の進む道を考え、表現して決意を強めましょう。
提出日：1月始業式、担任へ

2学期頑張ったこと ・学習 ・部活 ・検定 ・行事 ・ボランティア・その他	2学期やり残したこと ・学習 ・部活 ・検定 ・行事 ・ボランティア・その他
得意科目	伸ばしたい科目
将来の夢	
現在の進路希望：○をつけて具体的に学校・学部・学科名や会社・職種(仕事の内容)名を記入しよう	
自分 (大学 短大 専門 企業就職 公務員 その他)	保護者 (大学 短大 専門 企業就職 公務員 その他)
下宿や入寮：(可 不可 必ず)	下宿や入寮：(可 不可 必ず)
冬休みの目標 (絶対やり遂げたいことに◎)	取り組み方
学習面 (3 割)	5 段階評価
・	
・	
・	
学校生活 (部活動含む)	
英検・GTEC・英検や進路に向けての取り組み	
冬期休業中の時間の固定をしよう！生活のリズムは大切です！	
起床時間	就寝時間
家庭学習開始時間	家庭学習終了時間
実学習時間	
平日	
休日	
不安や悩みは	

○冬休みの振り返りと3学期の目標

冬休みに何か変化はありましたか
生活面(家庭環境など)：有・無 友人関係：有・無 部活動：有・無
＜内容＞

冬休み中に最も印象に残った出来事を記入してください

3学期の目標

	3月時点での理想の自分	実現のためにこう努力する
学 習		
学校生活 部活動・ 行事など		
英検・英検や GTEC・英検 進路に向けての 取り組み		

お立ち入り試用募集
オープンキャンパス 大学が高校生や保護者向けにキャンパスを開放し、見学会、入試説明会などを実施するイベント。学生が相談役やキャンパス案内などに参加しているところもあり、志望校の雰囲気を感じることが出来る。メニューが多岐で規模が大きいオープンキャンパスは、各大学とも7～8月の夏休みから秋にかけて開催されることが多い。秋には入試対策講座も実施されるので、参加して問題傾向を分析することが大切である。
学生募集要項 大学入試に出席するための情報 (試験日・合格発表日、試験会場、試験科目・配点など) が記載されている資料で、「募集要項」「入学試験要項」などとも呼ばれる。一般入試の募集要項は既述の国公立大学では11～12月に、私立大学では9～11月頃に発行される。国公立大学は無料だが、取り寄せるには送料が必要。私立大学は、医学部など一部で有料のところもみられるが、送料を含め無料のところが多い。「募集要項」とは別に、学部・学科の内容やカリキュラム、就職状況などを紹介する「大学案内」を作成している大学も多い。「募集要項」「大学案内」とともに、ほとんどの大学ではホームページで閲覧できる。ネット出願の大学がほとんどである。ネット出願する場合に願書を取り寄せる必要はなく、「募集要項」もホームページで閲覧できるため必ずしも取り寄せる必要はない。しかし、出願の一部書類は郵送のため注意が必要である。
小論文 入試科目のひとつ。大学入試ではテーマ(課題)を示してそれについて論述させるものや、課題文やグラフ・絵・写真などを読みとって、設問に解答する形式が多い。課題文が英文で出題されるケースもある。テーマは、時事問題やその学科の専攻内容に即したものが多く、日頃から本や新聞を読んで時事問題や社会問題への関心を持つこと、自分の考えを論述してみることが対策の第一歩である。

どうしたら、自分の才能を伸ばせることができるの？
「目標を持つことは大事だと思います。僕がどういう選手になるのかというのは、自分で決めること。(中略)チームの柱として頑張っている自分を想像するのは、すごく大事なことかなと思います」(大谷翔平：野球選手)
目標を持つことは、夢を実現させるための強い要素である。しかし、「二刀流になりたい」「なれたらいいな～」「なれるかな？」といった思いでは、前進する。大谷は、「プロ野球選手になる！」「二刀流になる！」と、断定的な目標が身についていた。断定的な目標で「なりたい自分」を周囲の人間に公言し、それを実現するための努力を果敢に積み重ねている。ほかの誰かの言葉を信じるのではない。自分を信じるのだ。自分が、夢に向かって努力し続けられること、決してくじけないこと。そして試験を乗り越えれることを信じるのだ。

キャリアパスポートはA4両面印刷が1シートになっており、1年生用と2・3年生用で項目が分かれている(3年生は「冬」ではなく「学年末」となる)。プライバシー保護のため、平時はファイルに綴じて管理している。

成果と課題

本当に進みたい道をより深く考えさせる指導へ

進路ガイダンスへの参加やキャリアパスポートの作成を通して、1年次から自分の将来や進路について考え、それを言語化する機会があることで、「自分の頭で考えるきっかけになっている」と森岡先生は感じている。実際、「高取国際高校の生徒は、学校の資料請求の動きが他校の生徒に比べて早い」と外部の人に生徒の意識の高さを評価されたこともある。

一方、考えの深さが足りないことを、課題に感じている。「考える」を決める、ではない。早く進路を決めたいという気持ちにはわかるが、そこで楽な方に流れるのではなく、本当に自分が進みたい道は何かを考えたいうえで選んでほしい」と森岡先生。公務員試験に受かった生徒に対して、「公務員になるかどうかを決めるのは最後でいい」と声をかけている。最後は、「ミスマッチを防ぐためにも、生徒にじっくりと考えさせる進路指導を続けていきたい」と締めくくった。

決定時期になってから、経済的な理由などで保護者が反対して生徒の希望する進路に進めなくなる、というケースもありました。もし早い段階で保護者の意見がわかっていれば他の選択肢があったのに、時期が遅いために間に合わないというのは生徒がかわいそうで…。キャリアパスポートの進路希望を書く項目には、生徒が書く欄と保護者が書く欄を別々に設けて、下宿や入寮の可・不可も含めて必ず保護者にも記入してもらっています」

こうして、生徒・保護者・担任(学校)の三者が生徒本人や保護者の進路希望や現状、家庭の事情まで含めて情報を共有するためのツールとしてキャリアパスポートを位置付けており、生徒との個人面談や三者面談の際にも活用している。「面談も、『君は将来何がしたいの？』で

ではなく『へえ、君はこんなことに興味があるんやね』という一歩踏みこんだところから入れるので、生徒との関係性を構築していくうえでも大きなメリットがある」と森岡先生。他の先生たちにも好評で、広く意見を取り入れながら項目などは年々ブラッシュアップを重ねている。

「生徒が書いたものを読むと、結構しっかりと考えて書いているなという印象です。進路ガイダンスのときも、メモをとる姿がよく見られます。自分の頭で考えること、そして、考えたことをまとめて書く、話す、伝えるという表現力は、社会に出てからもとても大切になる力です。こうした力を伸ばすために、教科学習だけでなく進路指導を通して何ができるかを、これからも追求していきたいと考えています」